

60 周年の刊行に寄せて



名誉会員 横山幸夫

創立以来変遷する時代を克服し、ここに 60 周年を迎え、記念誌が刊行されますことをお慶び申し上げます。

創立当時(昭和 28 年)120 余名の会員数が今では 1300 余名とのこと感無量です。

これもひとえに会長はじめ会員皆様方の努力の賜物と思います。

私は、常々診療放射線技師は、真面目な職業人の団体と思います。時代と共に、仕事内容も変化発展し、想像の付かない分野を勉強し、研究し短時間の間に身に付け、寝食を惜しんで没頭した。

医療分野の発展に追い付け、追い越せと、日々生活をした職種だと自負しています。

激動期・軌道期・形成期・壮年期とも表現されますが、私は、形成期・壮年期はこれからと思っています。

医療技術の進展に伴い、放射線業務も、細分化し、煩雑化し、高度化し、教育なくしてはと、卒後再教育し、臨床実習し、教育システムも、専修学校・医療短大・4 年制大学、大学院も設置され発展してきました。

日本赤十字社放射線技師会も 60 周年を迎え、年度特別講演も内容重厚な講演を年 2～3 例を 60 回、何よりも素晴らし会員研究発表の数と内容の重厚豊富さは、尊い成績と会発展に寄与した証と、会に籍を置いた者としての誇りと自負する次第です。これも現役の会員のご努力と感謝する次第です。

今年も、新たな年を迎え反省するに・・・昨年は、漢字のグランプリは「輪」でした。

2020 年に東京オリンピック決定、富士山世界遺産登録等、日本中が輪になって湧いた年でした。他方政治経済の面では、成り行き不透明なアベノミクスの動向、貧富格差の増長、超高齢社会への突入、汚染水や廃棄物等原発事故処理の問題などが山積したまま新年を迎えることになりました。きっとこれからは、穏やかな年が来ることを念じる次第です。

最後に、日本赤十字社放射線技師会の益々の発展と活躍を祈念して、創立 60 周年のお祝いの挨拶とします。